

江別市の概要



人口：119,502人
(令和3年4月1日現在)
面積：187.38km²
(東京23区合計面積の約30%)
道央圏で札幌市につぐ規模の街です。

宮城県涌谷領からやってきた21戸76人の農民が最初の「江別市民」でした。明治11年(1878年)には江別村が誕生、その後、各地から屯田兵が入地し、計画的な開拓がすすめられました。昭和40年代より宅地造成が進んだ江別市は、5つのJ R駅を中心に市街地が形成されており、交通アクセスの良さなどが評価され、札幌市への通勤・通学圏内で最も人口が増加しました。

近年は、商業施設や飲食店の進出が目立ち、自然と都市機能が調和したまちとして発展を続けています。



企業版ふるさと納税プロジェクト

プロジェクト名	主な事業
○ 大学生とつくる次代のまちプロジェクト 市内の4つの大学に約1万人の大学生が通う文教都市、江別市では、大学生と一緒に江別市の課題や将来について考え、そして行動する取り組みを進めています。 知らないまちだった江別市のことが、大好きになり、卒業後も江別市とかかわっていきたくてもらうためのプロジェクトを実施しています。	・学生地域定着自治体連携事業 江別市と空知管内7つの市町を含めた広域連携事業で、市内4大学の学生にイベントの補助や企業訪問を通じて、地域の魅力を知ってもらい、就職や定住など地域定着につなげています。
○ 子どもの未来応援プロジェクト 江別市は、子育て世代の転入者が多く、パパやママと一緒に子どもが笑いながら遊ぶ姿を様々な場所で見ることができるまちです。市民が「幸せ」を感じる時間を大切に、そのサポートをするプロジェクトを実施しています。	・大学生等地域関係促進事業 市内4大学の学生が主体となり、市内をフィールドに様々な“やってみよう”を実現して、江別市との関係を含め、関係人口の創出を行っています。
○ 子どもの未来応援プロジェクト 江別市は、子育て世代の転入者が多く、パパやママと一緒に子どもが笑いながら遊ぶ姿を様々な場所で見ることができるまちです。市民が「幸せ」を感じる時間を大切に、そのサポートをするプロジェクトを実施しています。	・あそびのひろば事業 身近な生きで遊びや交流を行う「地域あそびのひろば」を開催し、子育てに対する悩みの解消や子育て世代の交流を促進するとともに、子どもの健やかな育ちを支援し、安心して子育てができる環境を整えます。
○ 新たなシンボルとなる新庁舎プロジェクト 現在の本庁舎は昭和41年建築のため、老朽化が進んでおり、また、耐震化が必要となっています。 そのため、環境にやさしく、江別らしさをPRできる新庁舎の建築に向けた取り組みを進めています。いざという時の拠点だけではなく、普段から利用したくなる庁舎をつくるためのプロジェクトを実施しています。	・小中学校外国語教育支援事業 小学校1年生からALT(外国語指導助手)が、外国語教育を行い、将来、様々な分野で活躍できる国際性豊かな児童生徒を育みます。
○ 新たなシンボルとなる新庁舎プロジェクト 現在の本庁舎は昭和41年建築のため、老朽化が進んでおり、また、耐震化が必要となっています。 そのため、環境にやさしく、江別らしさをPRできる新庁舎の建築に向けた取り組みを進めています。いざという時の拠点だけではなく、普段から利用したくなる庁舎をつくるためのプロジェクトを実施しています。	・本庁舎建替事業 令和10年度の新庁舎完成及び供用開始に向け、基本設計や実施設計など、具体的な取り組みを進めていきます。 〈新庁舎建設の基本理念〉 えべつの街なみと自然に映える市民が集う庁舎～日常の安心を未来へつなぐ～
○ 自分らしく活躍できるまちプロジェクト 江別市では、性別、年齢、国籍、文化の違い、障がいの有無などに関わらず、誰もが自分らしく活躍できるまちを目指しています。イベントなどを通じて、理解を深め、歩み寄り、それが市内全体に広がっていくためのプロジェクトを実施しています。	・生涯活躍のまち推進事業 江別市と空知管内7つの市町を含めた広域連携事業で、市内4大学の学生にイベントの補助や企業訪問を通じて、地域の魅力を知ってもらい、就職や定住など地域定着につなげています。
	・江別まちなか仕事プラザ事業 江別市内の4つの大学の大学生が主体となり、市内をフィールドに様々な“やってみよう”を実現して、江別市との関係を含め、関係人口の創出を行っています。

詳しくは以下のサイトをご確認ください。

URL:www.city.ebetsu.hokkaido.jp/soshiki/seisaku/41988.html

多くの子ども・若者でにぎわうまちを活かす



市内の4つの大学に約1万人の大学生が通う文教都市、江別市では、学生と一緒に江別市の課題や将来について考え、そして行動する取り組みを進めています。知らないまちだった江別市のことが、大好きになり、卒業後も江別市とかがわっていきたいと思ってもらうためのプロジェクトを実施しています。

project1

大学生とつくる 次代のまちプロジェクト

主な事業

- ・学生地域定着自治体連携事業
移住体験型インターンシップの企画や地域活動への参加を進めます。
- ・大学生等地域関係促進事業
市内をフィールドに様々な取り組みを考え、地域の活性化を進めます。



江別市は、子育て世代の転入者が多く、親子が笑いながら遊ぶ姿を様々な場所で見ることができるまちです。市民が「幸せ」を感じる時間を大切にし、そのサポートをするプロジェクトを実施しています。

project2

子どもの未来応援 プロジェクト

主な事業

- ・あそびのひろば事業
身近な地域で遊びや交流を行う「地域あそびのひろば」を開催します。
- ・小中学校外国語教育支援事業
小学校1年生からALT(外国語指導助手)が、外国語教育を行い、将来、様々な分野で活躍できる国際性豊かな児童生徒を育みます。



みんなが健康で安心して暮らせるまちをつくる



現在の本庁舎は昭和41年建築のため、老朽化が進んでおり、また、耐震化が必要となっています。そのため、環境にやさしく、江別らしさをPRできる新庁舎の建築に向けた取り組みを進めています。いざという時の拠点だけではなく、普段から利用しやすくなる庁舎をつくるためのプロジェクトを実施します。

project3

新たなシンボルとなる 新庁舎プロジェクト

主な事業

- ・本庁舎建替事業
令和10年度の新庁舎完成及び供用開始に向け、基本設計や実施設計など、具体的な取り組みを進めています。



江別市では、性別、年齢、国籍、文化の違い、障がいの有無などに関わらず、誰もが自分らしく活躍できるまちを目指しています。イベントなどを通じて、理解を深め、歩み寄り、それが市内全体に広がっていくためのプロジェクトを実施しています。

project4

自分らしく活躍できる まちプロジェクト

主な事業

- ・生涯活躍のまち推進事業
共生のまちづくりに向けて、多世代が交流できるイベントなどを開催します。
- ・江別まちなか仕事プラザ事業
市内商業施設に拠点を設置し、専門のスタッフが個別相談やセミナーの開催を通じて、就労に向けたサポートを行います。

